

碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
 神奈川 碩 心 会 発行

元 年 7 月 現 在 会 員 数 名
 返 子 地 区 1 6 6
 葉 山 地 区 2 5 7
 大 船 地 区 4 5
 (合 計) (4 6 8)

元 年 7 月 号 (2 0 4 号)
 発 行 者 萃 岳
 根 岸 岳 集 者
 編 村 愛 岳
 中 村 愛 岳

吟一步前進して

堀内支部D 徳本華泉

中村先生に御厄介になり、もう丸三年半が過ぎました。入会させて頂きました当時、はとでも不安でしたが、先生が分り易く、又やさしく熱心に御指導を下さり、やっと自分なりに吟じられるようになりました。お教室では先輩の方々と一緒にさせて頂き、きとでも勉強になります。何時か皆様のうりに落着いて吟じられるのを夢見て気を長く、そしてこれからの私の余生の支えとして、お稽古が楽しみです。年号も変り、又新しい気持ちで頑張りたいと思います。

加藤岳相先生審査委員に

平成元年六月二日付で、総本部より審査代行委員の発令がありました。おめでとうございます。

◎ 行事予定

◇第35回 夏期吟道講座
 と き・7月29日(土) 7月30日(日)
 ところ・九段会館・千代田公会堂

◇県本部指導者吟道講座

と き・8月6日(日)

9時受付・9時25分開講

ところ・防衛大学中ホール

。JR横須賀駅下車、防大行バス

バス時間(7・44) (8・02) (8・29)

。京急馬堀駅下車、馬堀海岸バス停

バス時間(7・22) (8・02) (8・29)

馬堀駅から小グループでタクシー

利用が最適

。吟道手帳を忘れずに・昼食出ます。

漢 詩：書 懐 安孫子岳晴

和 歌：親思う 覚張 岳環

短 歌：まきふかき

俳 句：とんぼつり・古池や 諸留 岳城

漢 詩：楠河州の墳に 松井 岳洋

新体詩：秋風の歌 新田 岳悠

21世紀に向かって岳風流

発展の為に指導者の心構え 長谷川岳聖

◇神・静地区青少年吟道大会

と き・8月13日(日)

ところ・鎌倉市勤労福祉会館

(JR大船駅東口より徒歩15分)

傾心会

温習会盛会に終る

6月18日(日)逗子市図書館ホールに於て、

第13回温習会が行われ、盛会に終りました。

◇昨年にひきつづき、今年も開会時からほとんど席が埋まり、そして閉会まで同じ状況で大変うれしく思いました。

◇進行も予定通りの時間に運営された。

◇式典の席で木杯賜与に対して傾心会員の気持ちとしてささやかなお祝をさせていただきますが、松井先生の御挨拶の中で、木杯賜与は私個人に下さったものでなく、全国会員の代表としていただいたものであるとの謙虚なお言葉が耳に残りました。

◇合吟コンクール18組。甲乙つけがたい接戦でしたが、順位は次の通りでした。

1.堀内支部① 2.逗子A支部(男子)

3.一色A支部 4.真澄支部 5.吟甫支部

◇合吟コンクールの番数が多かったのは、会を盛りあげたと思う。そして結果発表の行われる最後まで席を立たなかったという好結果につながったと思う。

◇指導者吟詠の時、一部マイクが入っていませんでしたというハプニングがあって残念でした。

逗子地区の業務について

逗子地区長 千葉 劔岳

(一)制度としての地区

昭和58年5月に配布された傾心会の会則をひらいてみて下さい。その第八条に「部及び地区の制度」として、各部地区の制度並びに、その長の決め方が定められています。地区長は常任理事から指名されます。

(二)所掌の範囲

該当地区に所属する各支部と、傾心会各部との間の業務遂行に支障を来さないように調整連絡にあたるのが、本来の任務と心得ております。従って所属各支部の自主性を十分に尊重し、各支部が会則に基いて自由に活発に活動ができるように助長する責務を有しているものと考えています。

(三)地区制の定められた経緯

昭和五十年代より以前のことと記憶してはいますが、吟を愛好する方々の増加傾向から、当会の会員も日増しに増える一方、全員の参加を目的としての温習会の開催など、不可能状態、従って会員の分布状態から、地域を三分し、逗子、葉山、大船地区と定めることとされました。また、当時少数の役員で、沢山の事務を抱えこんでいたもの

ですが、合理的な処理をするため、会則も逐次、改正して現在の各部、地区等の制度になったものです。

(四)現在の逗子地区所属の支部名

地区制設定後、多少の変遷はありましたが、現在は次の支部が所属しています。

逗子A・逗子B・桜山A・沼間・山ノ根
銀詠・葉月・真澄・若葉の九支部です。

(五)当地区の主な処理実務

(1)会、各部から所属支部に対する指示連絡事項の伝達、回答を要する案件の完全なとりまとめ報告。

(2)三年に一回主管する地区温習会の設定、開催業務(本年当地区担当)

(3)毎月の吟道その他広報誌の各部への配布
(4)当地区特有の逗子吟舞連の各行事について、派遣理事から連絡される地区内業務の処理。

(5)その他内規に基く見舞金の上申など、掲出しないもので細部の業務が処理されております。なお各部において地区会議を要請する事項があれば、随時開催を考慮しておりますので、お申出下さるよう、本誌上をお借りしてお願いしておきます。

奥の細道旅立ち三百年

松尾芭蕉

あらたふと青葉若葉の日の光
夏草や兵どもが夢のあと
閑さや岩にしみ入る蟬の声

五月雨をあつめて早し最上川

荒海や佐渡によこたふ天の川
塚も動け我が泣く声は秋の風

前記の句は、私達詩吟を学ぶ者にとって
も大変馴染深い句です。今年芭蕉の「奥
の細道」紀行三百年：生涯の大半を旅に明
け暮れた俳聖松尾芭蕉の、自然を愛し、そ
の感動を綴った多くの名句と紀行文は、私
達の心に深く刻まれています。

俳人芭蕉（一六四四～九四）は人生の大
部分を旅に送り、五つの紀行文を残したが、
その一つが「奥の細道」で、この奥の細道
は、その規模といい、芭蕉が旅を通じて味
わった俳諧的人生経験の豊富さ、漸新さと
いい、芭蕉の総結算だといわれています。

芭蕉が奥の細道の旅に出たのは四十六才、
元禄二年（一六八九）三月二十七日、現在
の暦では五月中旬の風薫る季節で、弟子の
曾良を伴い、みちのくの歌枕、名所を訪ね
ようと、江戸深川から、舟で千住大橋をぬ
ぎ、そこでの有名な

行く春や鳥啼き魚の目依振に

の離別吟を残して江戸を発ちました。

江戸から東北へ、そして日本海岸を南下
して敦賀に至り、更に美濃の大垣に及ぶ、
約六カ月、六百里（二、四〇〇）の旅と
いう。簡単に主な足どりをたどってみると
江戸江川川日光日白河白仙台仙塩釜塩松島松

石巻石平泉平一関一尾花沢尾山寺山立石立
寺寺最上川最の急流を舟で下り羽黒山羽
月山月酒田酒象潟象山中山（那谷寺）
崎崎金沢金大垣大

八月二十八日に大垣に到着。そして九月揖
津川を下って伊勢長島に向い、そこで奥の
細道は終った。

芭蕉はこの稿のため、非常な努力を払い、
句も幾度か改案されて、友人の書家・素竜
によって清書されたのは元禄七年という。

芭蕉は正保元年（一六四四）三重泉伊賀
上野市に生まれた。十才の頃、領主藤堂新
七郎の子・良忠に仕え、この良忠（号・蟬
吟）が俳諧をたしなむことから、芭蕉も俳
諧に興味を示すようになったといわれてい
る。のち藤堂家の若い主人の死と共に、芭
蕉は出奔して京都に行き、官を求め出世し
たい希望もあり、国学、漢籍を学んだが、
仕官の機会なく、世渡りの手段として俳諧
師になったが、之が病みつきで、終生俳句

を作り、全身全力を打ち込むようになった
という。

交通の便のよくない当時、私達のよく知
る去来、其角、嵐雪など蕉門十哲を筆頭に
全国に門弟が二千人もいたという事は、単
に芭蕉の文学的な才能だけの魅力によるも
のだけでなく、彼の人間味と人格の高潔さ
に、すべての人達が親しみ、敬服していた
のであらうと私は思う。

孤独の詩人であり、行い澄ました禅僧良
寛（一七五八～一八三一）にして「芭蕉翁
の前に芭蕉無く、芭蕉翁の後に芭蕉無く、
人をして千古此の翁を仰がしむ」と喝破し
ていることによっても、其の人物が如何に
偉大であったという証拠になると思う。

元禄七年芭蕉は芭蕉庵の留守を弟子にま
かせ江戸を発ち、大津・京・奈良を経て大
阪に入った。そして十月八日

旅に病んで夢は枯野を駆け廻る
の最終吟をかかせ、十二日に死んだ。

古池や蛙とびこむ水の音

名月や池をめぐりて夜もすがら

五月雨の降り残してや光堂

花の雲鐘は上野か浅草か

（愛岳記）

※傾心62/6月号にも芭蕉の記事を掲載して
あります。再読していただければ幸いです。

練吟
×七 漢詩の暗記

○岳風会会員の平均年齢が七十歳ぐらいいと聞いて、随分高齢化したものだとしみじみ思う。詩吟は趣味だと言いが、吟詠界では年齢にかかわらず昇段試験がついて回る。七十歳、八十歳となれば、九段か十段の高段位の審査が普通であろう。十段の審査課題は、漢詩は王陽明の「啾々吟」(七言十八句の排律)と、日本漢詩の「吉次峠の戦」(七言排律・十二句)で、ともに暗記が大変である。そのほか短歌二題と俳句二題がある。新体詩は宮沢賢治のおなじみ「雨ニモ負ケズ」の長詩。そのうえに頼山陽の七言古詩「前兵児の謡」の書き取りがあり、メニューは盛り沢山である。七、八十歳の高齢でほとんどの者が、これだけの審査課題に挑戦するというのであるから、驚きとともに心から敬服するところである。

○昭和六十二年には、日本の女性の平均寿命は約八十一歳で世界一となった。男性は約七十五歳でこれもトップクラスであるという。ところで物の本によると、今から百二十年ほど前の江戸末期の頃には、日本人の平均寿命は三十歳に達していなかったらしい(当時は統計がないので、文献や諸資料からの推測である)。それが大正十年頃には四十二歳になり、昭和二十二年になってようやく女約五十四歳、男五十歳に達している。当時は文字通り「人生五十年」であったわけである。欧米先進国の場合、この百年ほど、目に見えるような変化はしていないというが、それにくらべ、日本の場合、戦後の短い期間に急速に寿命が伸びたことは、世界の驚異とするところである。

○最近では「人生八十年」という言葉が使われるようになって来た。このように、日本が急速に平均寿命が伸びた理由は、簡単に言えば病気で死ぬ人が少なくなったからであろう。その理由を挙げれば、医療の進歩で、結核はじめ猛威を振るった急性伝染病による死亡や乳幼児の死亡が激減したことが第一である。また、抗生物質のような強力な薬剤の出現や、予防医学の著しい普及に並行して、国民の食生活の内容が大幅に改善されたことが寿命の伸びを招いた。

○人間の脳細胞は四十歳を過ぎる頃から壊れ始め、老化現象が進むという。ところが大脳とくに前頭葉は、仕事や趣味でその老化はかなり先送りすることが出来るそうである。高齢者にはまことに酷であるが、漢詩の暗記は、脳細胞老化防止のためには最高の役目を果たしてくれるものと思われる。

全国吟道大会参加・県本部吟行会

傾心会参加者名

自10月7日
至10月10日

- 根岸岳萃 加藤岳相 沼田洸岳 中村幸岳
中村愛岳 黒崎李岳 緩部秋岳 村田滯岳
渡辺秀岳 白井寿岳 白井麗岳 佐竹扇岳
高梨以岳 舟渡舟岳 佐久間爽岳 木村松岳
田辺伯岳 長島玉岳 安田聡岳 平山栄風
宇都宮徳風 田中明風 松井正風 大屋正風
石戸倫風 金子輝風 長島正山 高橋俊山
八尾昭泉 (29名)

- (入会)
537 武藤(ちよ) 逗子市桜山三一六一一五
(有)澄 (電)〇四六八一七三一六一一八

- (退会)
122 高島久風(松和) 147 佐藤徹風(松和)
165 長田照風(松和) 231 中村倂風(風早)
248 若林江風(堀内E) 362 堀口妙山(大給A)
490 須藤謙典(下山口) 503 菅田光子(真澄)
505 鉄本典英子(真澄)

パンをかじりながら「夕べは芭蕉の奥の細道紀行三百年の記事を書いていたら、一時すぎちゃった」なんて話したら、五才の孫ちゃんが「チャコちゃんの家はネ、オクノホソミチを右の方に曲ってネ。」ですってに大笑い。我が家の朝食のひとつまでです。